

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 27 年 6 月 27 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900555		
法人名	有限会社 ケア・プラザ		
事業所名	れんげの里		
サービス種類	(予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒584-0084 大阪府富田林市向陽台1-4-16		
自己評価作成日	平成27年5月12日	評価結果市町村受理日	平成27年7月9日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.kaigokensaku.jp/27/index.p
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成27年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意志及び人格を尊重し、出来ない事はお手伝い、出来る事を見出し見守るケアを理念として家族様や地域の方々への理解を深めその人のリズムに合わせた生活の場を提供することに努めています。また、近隣する提携医療機関とは24時間の対応が可能であり緊急時でも安心していただけます。職員は終末期の看取りケアにも対応可能で重度の認知症状の方でも寄り添いながら個別の対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ケア・プラザ れんげの里」は富田林市の丘陵の住宅地域にあり、近くに総合病院、富田林市ケアセンター(複合施設けあぽる)と店舗がある。隣接する内科クリニック(協力医)と24時間体制で医療連携を図り、医療ニーズの高い利用者も安心して生活できるように支援している。職員は一日の支援を振り返り、法人の理念の達成状況を記録し、管理者はこの書類にコメントを加えて職員に返す取り組みを3年間続けている。その結果、管理者と職員の絆は深まり、サービスの質の向上につながっている。食事は手作りで、季節の野菜等旬の食材を取り入れ、嚥下能力に合わせて調理を工夫し、楽しく食事ができるように職員から声かけしている。脳のトレーニングで始めたジグソーパズルでは、興じる利用者と職員や利用者間の会話が生まれている。4月の花見等、毎月事業所が開催する行事で、利用者は家族、職員等と一緒に、食事やゲーム、外出を楽しんでいる。事業所は市と連携して、毎月ぴあ介護相談員の訪問を受け、利用者が抱えている悩みや不安を相談員が聴き取り、職員と意見交換を重ねることにより、サービスの質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、職員は毎日ノートにて実践出来たかどうか確認を行っている	法人の5つの理念「付き添い寄り添い見守るケア」「出来ないことはお手伝い出来ることを見出すケア」「言葉使いは尊敬と意をこめてやさしくゆっくり」「好みの献立を、温かい物は温かく冷たい物は冷たく」「散歩・買い物」の励行」を居間兼食堂に掲示している。職員一人ひとりには終業時と1週間ごとに、理念のとおり実践できたかどうかを振り返り、ノートに記録し毎週管理者に報告している。管理者は職員の自己評価に目を通しコメントを加える等、一人ひとりの支援が理念に沿ったものになるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加盟し色々な催しに参加させていただき交流を図っている	自治会に加入している。利用者は職員と一緒に散歩の中で地域の人々と挨拶を交わし、地域が開催する落語会等の催しに参加して楽しんでいる。地域の清掃には職員が参加している。花見等の事業所の行事には、地域のボランティアの協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談ポスターなどを掲示し、気軽にご相談をして頂けるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取組状況等について報告し、皆様のご意見を参考に次に生かす様にしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。利用者、家族、地域住民、地域包括支援センターの職員と事業所の職員が出席しているが、最近では地域の代表者の出席はない。会議では、双方向的な意見交換になるよう、感染症予防等の季節的課題や他事業所の運営推進会議情報等、毎回取り上げるテーマを工夫している。会議録を残し、職員全員に回覧して、内容の共有に努めている。	自治会役員や民生委員等地域の代表への出席の呼びかけを続け、地域との連携について、より具体的な話し合いを行うことが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	取り組みの相談や、グループホーム交流会などを通じ積極的に協力関係を築くようにしている	地域包括支援センターの職員に、事業所の取り組み内容について相談している。また、職員は、市の高齢介護課の職員が出席するグループホーム交流会で、意見交換する等市との協力関係を築くように努めている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関はチャイムに変え、鍵の施錠をなくし、身体拘束については各研修などを通じて理解を深めるよう努めている</p>	<p>毎年、身体拘束をしないケアについて、職員全員で研修している。玄関は夜間を除き開錠している。利用者が一人で外に出て事故に遭わないよう、ドア・チャイムを設けるとともに、職員が利用者に目配りを行っている。建物の前は、他施設の駐車場に面しており、安全確保のため門扉は施錠している。利用者が外に出たい時は、職員と一緒に出かけようとしている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、各研修などで学ぶ機会を持ち、主治医とも相談させていただき、夜間宿直体制をとり勤務者が一人にならないように徹底している</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月例のミーティングや外部研修などで理解を深め、関係者と話し合い活用できるように取り組んでいる</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護保険制度及び事業所のサービス内容について資料を用意するとともに、入居者様やご家族様に十分ご説明をしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第2土曜日・日曜日を家族会として来里された方のご意見を聞かせて頂き、業務に反映するよう取り組んでいる</p>	<p>職員は、運営推進会議の他、家族の訪問時に、率直な意見や要望を聴き取るように努めている。訪問の少ない家族に対しては、介護支援専門員が手紙と一緒に利用者の写真を送る際に、電話で意見を聴いている。家族からの意見等は申し送り時に職員間で共有し、事業所内の生活環境や支援の改善に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回のミーティング時には、職員からの発表の場もあり、自由に意見や提案を話せる機会がある</p>	<p>管理者は職員との関わりの中で話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からの意見、提案は毎日の申し送り時に話し合い職員間で共有している。また、管理者は日頃から職員の様子を見ながら、必要に応じて随時個人面談を行っている。毎月、ユニット別に職員ミーティングを開催し、法人代表も出席して職員の意見を聴いている。職員の意見により、車椅子体重計の購入や介護方法の改善が出来ている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>内部研修、外部研修の機会を持ち、各自向上に努めている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修・外部研修に参加できるように、機会を設けている。他地域の研修にも参加できるように情報収集・公開を行っている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>行政主催の会議（研修会）やグループホーム交流会などに参加したり、他施設のパンフレットの交換も行っている</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>しっかりと話を聞き、受け止めることで信頼関係を築き心を開いてもらえるように努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ゆっくり、具体的にわかりやすいように説明させて頂き、納得して利用して頂けるように努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援はもちろん、要望を確認し他のサービス利用に努めている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>私たちの先輩として傾聴し、苦勞されたこと・子育てのやり方など、多くを学ばせて頂いています。さらに特技や趣味なども学ばせて頂いています</p>		

19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中での出来事や昔話を聞かせて頂きご家族様と一緒に支援させて頂いています		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に催しなどの写真や日頃の様子を伝えるなど行っています	利用者が日頃頻繁に訪れている「けあばる」や買い物で訪問する洋品店や菓子店とその店主が利用者の馴染みの場所や人となっている。馴染みの人や場所の情報は、入居時等に介護支援専門員が利用者や家族から聴き取り、「私の生活史」やアセスメント表に記録し、職員間で共有し支援に反映している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動の援助の強化、ご利用者様同士の趣味の共有などを考え、席が隣り合わせになるなど、気配りしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もスーパーなど近隣で出会う事があり、ご家族様から相談を受けることがあります		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りコミュニケーションをとり、朝一番のコーヒー・紅茶など一人一人の今までの暮らしに合わせたケアを行っている	職員は支援の中で交わす利用者との会話等から利用者一人ひとりの思いや意向を聴き取っている。聴き取った情報は、申し送り時に職員間で共有し、生活記録に残し支援に反映している。コミュニケーションの取りにくい場合は、スキンシップを取りながら、ゆっくりと言葉かけし、利用者の表情や反応から汲み取るようしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	基本情報の把握と日々のコミュニケーションの中で、くみ取り反映するよう努めている		

25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察の中、職員同士の情報交換などで把握し支援している		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見を尊重しつつ、職員が意見を出し、出来る限りご本人様の希望を優先させる介護計画にしている	介護計画は3ヶ月毎に見直し、利用者の状態に変化があればその都度見直している。ケアカンファレンスには、法人代表、管理者、介護支援専門員、介護職員が出席し、協力医等は必要に応じて出席している。また、介護支援専門員が事前に家族から直接意見を聴く機会を毎月定期的に設けているが、欠席の場合は電話で聴き取っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化ノート、急変ノートを使い、申し送りなどで情報を共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々個別観察に力を注ぎご利用者様の都合に合わせたサービスをしています		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加させて頂き、積極的に交わりを持つ機会をつくっています		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望される医療を受診されている。また、専門医に診て頂けるよう支援している	利用者のほとんどは、協力医をかかりつけ医としている。家族等が希望すれば、入居以前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。この場合家族が原則として通院に同行している。協力医による月2回の往診があり、状態に応じて受診回数を増やしている。また、24時間、緊急時の対応ができる。週1回歯科医の往診がある。眼科、皮膚科の受診は職員が同行している。受診結果は医療連携ノート、連絡ノートに記録し、職員間で共有し、状態の変化が見られた場合に、家族に連絡している。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	定期の診察や往診時に、日頃気付いた事を医療連携ノートを作り記入しておきそれを伝えて支援している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携と主治医との話し合いによりご利用様とご家族様の要望を反映している		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針を入居時や状態が悪化した時、主治医を交え医療連携体制と看取り指針を作成確認し、支援している	重度化した場合や終末期の看取りに関する事業所の方針は、入居時に利用者・家族に文書で説明している。利用者の身体状況が悪化した時に、家族、職員、協力医等で話し合いを重ね、家族の意向を確認している。家族が看取りを希望する場合は、事業所、家族と協力医で同意書を交わし、連携して支援している。今年度は利用者3人の看取りを行った。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ノートを作り職員全員で共有している。事故発生時、発生後も反省会を開き報告書を作成しミーティング時に話し合いを持っている		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により避難訓練など、年2回実施しており、緊急連絡網などを準備している	毎月消火器、避難通路の点検を行っている。昼間を想定した消防訓練を年2回実施しているが、消防署員の立会いはない。各フロアの電話の近くに、消防署への通報装置を設置し、職員・家族への緊急連絡先や防災訓練マニュアルを掲示している。水とカンパンを備蓄し、年2回点検している。災害時の地域との協力体制はできていない。	消防署等と連携し、夜間を想定した避難や消火器を実際に使用した訓練等、より実践的な取り組みが望まれる。運営推進会議等の場で、災害時の地域との具体的な協力体制の構築が期待される。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人の人格を大切にし、理念を重んじた言葉かけに努めている</p>	<p>毎年プライバシー保護と接遇に関する研修会を実施している。「言葉使いは尊敬と意をこめてやさしくゆっくり」の法人の理念に沿い、利用者の人格を損ねないように努めている。個人情報記録した書類は鍵のかかる書棚に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご利用者様の思いや希望を大切にするよう職員全員が受け止めご利用者様が納得できるよう努めている</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩、昼寝、入浴など一人一人のペースに合わせて強制しない自由にして頂く支援を行っています</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>モーニングケアの時にはご自身で髪の毛をといて頂いたり、時には女性の方にはお化粧品をして頂いたりしている</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>理念の通り、温かい物は温かく・冷たい物は冷たく、嚥下に気遣った大きさや味付け、ご利用者様と一緒に準備や片づけを楽しみながら行っています</p>	<p>食材は1週間単位で主に生活協同組合から購入している。その日の食事担当職員が、利用者の体調に合わせて、在庫の食材から献立を考え、調理、検食を行っている。台所は対面方式で、職員は調理しながら利用者に語り掛け、調理の進み具合を見せたり、また音や匂いで食欲が湧き楽しい食事になるように努めている。花見弁当、流しそうめん、レストランでの外食、職員と一緒に作るクリスマスケーキ等、食事が一日の生活の中で楽しみになるよう支援している。利用者はもやしのひげ根取り等出来ることに取り組んでいる。</p>	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられた量、水分摂取量の少ない人にはどう対応すればよいか手探りですが個別に対応した支援をさせて頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科衛生士による検診と毎食後の口腔ケアの声かけと誘導を徹底しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間を決めてトイレ誘導をすることにより失敗を防ぐように努めています	利用者一人ひとりの水分・食事の摂取量、排尿、排便を生活記録に記録している。排泄パターンを把握し、トイレ誘導等でほとんどの利用者が、日中はトイレで排泄できるよう支援している。止むを得ずオムツを使用している利用者もいる。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。便秘予防のために水分摂取や献立内容に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の便通に応じた対応をしている。便秘体操や運動等も取り組んでいます		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調などに考慮しながらあらかじめの予定は決めています。利用者様が入りたい時に入浴して頂いています。タイミングに合わせた支援をしています	週2回、午後から入浴している。個浴で毎回湯を入れ替え、利用者の好みの湯加減にしている。入浴を嫌がる利用者には、入浴日・時間を変えたり、言葉かけに工夫したり、清拭に変更する等利用者に応じた支援をしている。車椅子使用の利用者には職員二人で介助を行っている。同性介助が基本であるが、利用者の同意を得て異性介助の時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の要望を優先しています。一人ひとりに合わせて、朝ゆっくり寝たい人には朝食などを遅くするなど支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ノートなどに個別に記入して副作用など薬の説明をもって支援しています		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活リハビリとして個々にお手伝いなどをして頂き、またレクレーションなどで役割を分担し利用者様が楽しめるよう支援しています</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日天気さえ良ければ、散歩に出かけます。利用者様の希望を把握し外食や買い物にも出かけています</p>	<p>天気の良い日は、事業所の近くの「けあばる」まで職員と一緒に出かけ、広い庭園や遊歩道の散策を楽しんでいる。家族の協力で弁当持参で花見をしたり、馴染みの美容院へ行っている。また、職員は予め利用者の外出希望を聞いておき、職員が同行して買い物や食事等に出かけられるよう支援している。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>散歩の途中などコンビニや自動販売機を利用して支援しています</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を散歩時に投函して頂いたり、電話もご自身でかけられる方は自由にできるよう支援しています</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手作りカレンダーや馴染みの写真の掲示など生活感を取り入れて工夫しています</p>	<p>玄関からすぐに居間兼食堂につながっている。中央にテーブル、椅子を置き、ここで利用者はテレビを見たり、新聞を読んだり、食事をして過ごしている。介護支援専門員が机で仕事をしながら利用者の状態の把握に努めている。対面方式の台所も含めた居間兼食堂では、職員は利用者気さくに言葉を掛けている。大きな窓際に、一人用のテーブル、椅子があり、一人でジグソーパズルに興じている利用者もいる。利用者との共同作業で、紙細工の紫陽花や、母の日のカーネーションの貼り絵を壁に飾る等、季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの机の配置など居場所の工夫をしています。気の合う方同士が話せる工夫をしています</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より持ってこられたカレンダーやご家族様の写真を飾られたり工夫をしています</p>	<p>1間幅の押し入れ付6畳和室で、ベッド使用時はカーペットを敷いている。障子をはめた窓から、明るい光が差し込んでいる。エアコン、ベッド(身体状態によりエアマット付)、テレビ、壁掛け時計は備え付けである。入居前に、利用者・家族に、リストを手渡して必要な持込み品の説明をしている。利用者はカレンダー、置き時計、仏壇、使い慣れた整理ダンス、家族の写真、思い出の品々等を持ち込んでいる。職員は利用者が居心地良く過ごせるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立に近い生活ができるように工夫しています</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない